

広島湾付近の海底断層について

岩淵 洋：海洋研究室

西川 公, 田中喜年：沿岸調査課

雪松隆雄：測量船「天洋」

Distribution of seabottom faults in the Hiroshima bay and its adjacent sea

Yo Iwabuchi : Ocean Research Laboratory

Hiroshi Nishikawa, Kitoshi Tanaka : Coastal Surveys and Cartography Division

Takao Yukimatsu : Survey Vessel "Tenyo"

1. はじめに

広島から岩国にかけての地域には、已斐断層（こいだんそう）や岩国断層などの活断層が知られており、また、岩国沿岸の安芸灘にも活断層が存在することが指摘されている（活断層研究会, 1991）。ただし、この地域のうち海域の音波探査が行われているのは、岩国沖など一部の沿岸域に限られている（国土地理院, 1989）。本論では、広島湾から安芸灘にかけての海域に潜在する活断層の検出を目的として実施した、同海域の音波探査の結果について報告する。

2. 地域の概観

調査海域に面する中国地方は山地や丘陵が大半を占め、海岸平野は大きな河川の河口部を除き少ない。本調査域では太田川、錦川の河口付近に扇状地を伴う海岸平野が認められるものの、大半の海岸部は山地が海岸に迫っている。調査域に点在する島嶼も比較的急峻で、巖島（弥山：530m）、西能美島（宇根山：542m）、屋代島（嵩山：619m）、東能美島（蛇峯山：438m）、倉橋島（無名高地：456m）など、標高400mを越える山がそびえている。

調査海域周辺の山地や丘陵は、白亜紀の花崗岩類（広島花崗岩類及び領家花崗岩類）、及び変成岩（領家変成岩類）が大半を占め、倉橋島や大竹市西方では一部丹波帯の三畳系～ジュラ系の堆積岩類が分布している（東元ほか, 1983, 1985, 1986, 高橋, 1991,

など）。新生界は比較的規模の大きい河川沿いとその河口部に分布する沖積層が主である。また、山地と沖積地との間には崖錐や扇状地堆積物が点在し、呉付近には2段の段丘堆積物がわずかに認められる（東元ほか, 1985）。この他にまとまった新生界の分布域としては、調査区域の西方、岩国市阿品付近には鮮新世末期～更新世前期に対比される礫岩・亜炭・泥岩からなる阿品層が（東元ほか, 1983）、また、調査区域の北東方の東広島付近には、更新世中期に対比される砂礫泥層（西条層）が分布している（東元ほか, 1985）。

なお、広島平野におけるボーリングによれば、沖積層の下位には花崗岩類の基盤を不整合で覆う更新統の砂礫層の存在が知られている（建設省計画局ほか, 1964, 藤原ほか, 1985）。

中央構造線より北の中部から近畿地方にかけては、北東-南西走向の右横ずれ断層と北西-南東走向の左横ずれ断層が多数分布することが知られている（活断層研究会, 1991, など）。中国山地においても北東-南西のリニアメントが多く知られているが、これらが活断層であるという証拠をもつものは多くはなく、古い時代の地質構造を反映した浸食によるリニアメントがかなり含まれているものと考えられている（活断層研究会, 1991）。広島市周辺においては、第四紀に繰り返し動いた証拠のある断層としては、五日市断層、已斐断層が、岩国市周辺では、岩国断層、甘木山断層（はたきやまだんそう）小方